

# ひだご坊真宗教化センターだより 2021年6月号

発行日2021(令和3)年5月28日 第11号 発行者:飛騨御坊真宗教化センター長・高山別院輪番 三島多聞

高山市鉄砲町6 Tel 0577-32-0776 web <http://hidagobo.jp> ✉ [takayama@higashihonganji.or.jp](mailto:takayama@higashihonganji.or.jp)

## 掲示板は待ってるぜ

近年、寺院の掲示板に注目が集まっているという。全国各地の寺院の掲示板に貼り出された法語の画像が、SNS上に次々と投稿されている。お聖教からの引用はもちろん、流行りの言葉を用いたり、社会状況をふまえながら教えを伝えようとするユニークな言葉もある。言葉だけではなく、僧侶の個性やお寺の雰囲気さえも伝わってくるようである。

2012年、年齢36の時。京都での社会人生活に区切りをつけ、ルーキーというにはふさわしくない年齢で寺に帰ることとなった。しかし、即戦力になれるわけでもなく、もどかしさを抱えながら「自分にできることは何か」と考えたとき、思い付いたのは「掲示板ぐらいならできるか」ということだった。

さて、寺院の掲示板に注目が集まるようにな

ったのは、2018年に企画された公益財団法人「日本伝道協会」主催の「輝け！お寺の掲示板大賞」がきっかけだといわれる。SNS上に投稿された法語の画像とコメントが、「ありがたさ、ユニークさ、インパクト」など、さまざまな観点で評価され、賞が決定する。評価の対象となる項目は、協会が独自に設けた基準ではなく、これからの時代において、世間から「期待されていること」の表れなのだろうと受け止めている。私たちが考えるよりも先に、世間の方からこれからの掲示板の在り方を問い直してくれている。

大正大学の寺田喜朗教授(宗教社会学)は、「人々の寺離れが進むなか、仏教そのものや寺の活動に興味を抱かせることができれば大きな意義がある」と指摘する(2019.8.19『日本経済新聞』)。寺離れの進行に何とか歯止めをかけたいのに、今は積極的に寺院に集まってもらえない……。焦りばかりが募る状況にあるが、この状況下でも私たちにできることはあるのではないか。いや、私たちだからこそ、やらなければならないことがあるのではないか。

2020年9月、宗派が行った「新型コロナウイルス感染症の影響下における寺院の教化活動の工夫に関する調査」では、「新たにはじめた、もしくはこれまで以上に力をいれたこと」に、インターネットを利用した法要、法話の配信と

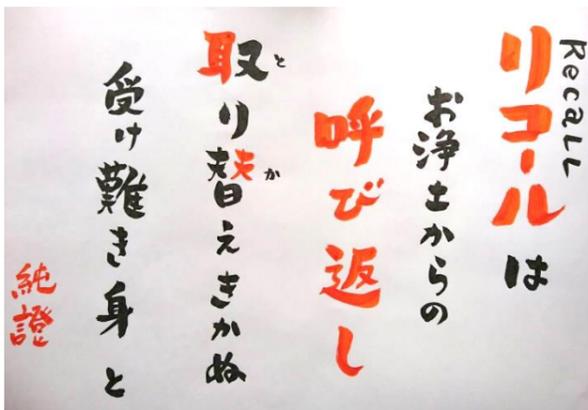
いうこれまでになかった取り組みもある中、圧倒的に多かった回答は、寺報の作成や掲示板の活用など、文書による伝道であった。

自坊の掲示は、毎月細々と続けて100回を超えた。最近になって、近所の方やご門徒から感想が寄せられるようになり、楽しみに待っておられる方がいることを知ることができた。決して一方的ではなく、必ず響きを受け止めてくださる人がいる。響きを受け止めてくださる人がいる以上は、決して軽視できるものではない。何より、雨の日も雪の日も、休むことなく響きを伝えるために立ち続けてきた掲示板の尊財(存在)の大きさを改めて知らされた。

「掲示板ぐらい」ではなく、「掲示板こそ」私に与えていただいた大切な役割であったことを、コロナ禍で学んだ。読みやすい紙面を作成し、広く配布することも大切な広報活動だが、その人のうなずきや反省を、その人なりの形で表現される掲示が「放つ光」も大きな広報(光放)である。仏事のご案内も大切なことであるが、この時勢にあって、今一度、ご自坊の掲示板の在り方を考えてみてはどうだろうか。

広報部会幹事

高山二組 圓徳寺 窪田 純



## ★センター・別院からのお知らせ★

### 「是旃陀羅」問題に関する学習会(報告)

去る5月14日に、「是旃陀羅」問題学習会が行われました。これは2013年部落解放同盟広島県連より、『観経』序分にある「是旃陀羅」の語に関して『現代の聖典 学習の手引き』に対する指摘と問題提起を受けたことを契機としています。

宗派では、2016年「部落差別問題等に関する教学委員会」からの報告を受け、各教区での学習会開催の協力要請がなされました。

このたび、本山解放運動推進本部の中山量純本部要員を講師(リモート参加)に迎え、29名(岐阜地区5名、事務局5名を含む)の参加のもと学習会が開催され、熱心な質疑応答も行われました。

講義では、教学の歴史の中で、「旃陀羅」を「暴悪、屠者など」訳する。四種族の下に位した家無の一族で、漁獵、屠殺、守獄などを業とし、他の種族から極めて卑しめられたものである。穢多、非人といふほどの群をいふ」と紹介してきたこと。また、特に問題提起したかったのは、親鸞聖人の本意や『観経』の視座が正しければ、差別にならないのか。逆に差別をもち出さなければ、真意が伝えられないのかということである、と述べられました。

<当日の感想より> 教えの言葉で「一切衆生」と聞いてきたが、その「衆生」とは、いったい誰なのか。「生きとし生けるもの」とか「みんな」という言葉を当ててわかったことにしてきたが、そこに漏れている存在、見えていない人々のことを、気にもしないで踏みつけている問題がたくさんあるのだということを知らせていただきました。

### 別院本堂境内はり出しの法語ポスター活用について

#### ★ご坊 de 法語★ <ご坊列座法語研究会より>

現在、別院本堂内や境内地には多くの法語がはり出されています。センター設立に先立ち、三島輪番と列座により、別院内の法語はり出しの活動が始まりました。列座が法語を選定又は自作し、その中から数点を輪番が筆耕し張り出しています。

掲示後の法語ポスター  
お持ち帰りください!

ただたく、別院会館入り口に過去に掲示したものを展示しておりますので、ご自由にお持ち帰りください。

ポストカード法語盾とご坊法語ギャラリー ⇒ (別院会館玄関)



### 第38回 真宗公開講座

第5回 6月17日(木) 午後7時~

テーマ: 耐え忍ぶ情熱

講師: 和田英昭氏(岐阜高山教区 照明寺住職) 会場: 別院本堂

※6月中旬の状況により、中止となる場合があります。

＜死と再生＞

■葬式は帰敬式である②—真宗葬儀次第

【念仏もうす】

今生に、いかに、いとおし不憫と思ふとも、存知のごとくたすけがなければ、この慈悲始終なし（人の思いは限りがある）。しかれば、念仏もうすのみぞ、すえとおりにたる大慈悲心にてそうろうべき 『歎異抄』第四章

されば、人間のはかなき事は、老少不定のさかいなれば、たれの人もはやく後生の一大事を心にかけて、阿弥陀仏をふかくたのみまいらせて、念仏もうすべきものなり 『御文』五帖目十六通

【無明性を破る】私たち真宗門徒は、「死」をただの出来事、事件として片づけ処理するのではなく、仏縁（念仏の教えを通して故人に出会い直す）にしてきた。それは、死を忌み嫌いタタルものとして見る人間の闇、無明性を念仏によって破っていく、いのちの尊厳性を知らされていくことである。

【出棺勤行】お通夜を済ませ、翌朝、葬儀を執り行う前段階として出棺の前に「出棺勤行」が勤まる。昔は家でお通夜をし、翌朝、野辺の送りとして火葬場に行く前に、家からの出立ちに出棺のお勤めをした。今は、お棺を葬儀場へ運んで、出棺勤行と葬場勤行を同じ場所で行っている。

これについて、高岡教区の勝満寺では、出棺勤行と葬場勤行を厳格に分けてお勤めする。虚栄のかがりは一切しない。葬儀は仏事であることの明確

な表現を通して、お念仏を伝えている。

出棺勤行では『勸衆偈』、葬場勤行では『正信偈』を勤める。出棺の前に、お棺の中に「南無阿弥陀仏」と「法名」を記して入れる。猛火の中に、故人と同伴するのは阿弥陀如来の仏様だ。一人ぼっちで猛火の中に在るのではない。

【『勸衆偈』】出棺勤行では『勸衆偈』が勤まる。これは『帰三宝偈』とも言う。『観無量寿経』を釈された唐代随一の高僧、善導大師の信仰の表白である。いよいよ出棺し、葬儀に向かう時に、明確な仏教徒としての〈いのち〉の方向を決定宣言するお勤めだ。

道俗時衆等、おのおの無上心を発せども、生死甚だ厭い難く、仏法また欣い難し。共に金剛の志を発して横に四流を超断し、弥陀界に願入して、帰依し合掌し礼したてまつれ。 〈意識〉…今どきの僧侶も在家の者も、それぞれ救わろうと求道心を起こすのだが、自分勝手な思いで求めるので、逆に煩惱がつきるところか盛んとなって、仏法を聞いて道を深めるという気にもなっていない。深く自らの限界を自覚・懺悔して、弥陀の我々につけられた願いに依って、生・老・病・死（四流）の苦を横ざまに超えようではないか。念仏の世界にこの身を託し念仏を依りどころとして、合掌礼拝しよう。

⇒帰依仏に当たる

…中略…

我等愚痴の身、曠劫よりこのかた流転して、

今、釈迦仏の、末法の遺跡、

弥陀の本誓願、極楽の要門に逢えり。

定散等しく回向して、速やかに無生の身を証せん。

〈意識〉…遠く深くかえりみるに、〈いのち〉の何たるかが解らず、久しく愚痴って流転してきた。今、仏縁あって、末法濁世の我等のために説かれてある、釈尊の教えに逢うことができた。往生の道を幾つか説かれたが、その中で、迷い悲しみ苦しむ者が往生できる教えを求めた時、説かれ教えられたのは弥陀の本誓願（念仏の教え）であった。今こそ、弥陀の本願によって迷わぬ身とさせていざよう。⇒帰依法に当たる

…中略…

十方恒沙の仏、六通をもって我を照知したまへ。今、二尊の教に乗じて、広く浄土の門を開く。願はくは、この功德をもて、平等に一切に施して、同じく菩提心を発して、安楽国に往生せん。

〈意識〉…お念仏によって、すべての者が救われる教えを讃嘆して下さる諸仏よ！、どうか私を導いてほしい。今、私は釈尊の勤めと弥陀の誓いを依りどころとし、念仏を申して多くの人達に仏縁を結んでいきます。弥陀の本願によって、すべての人に平等に願いをかけられ、共に、同じく念仏申すところを発して、弥陀の浄土、すなわち真実の出遇いの世界に歩みを進めることを願わずにはおれません。⇒帰依僧に当たる

一口法話 web ひだご坊で配信中！ <https://hidagobo.jp/>

6月1日から30日のお話

- 三島 多聞氏（高山別院輪番）
- 小原 正憲氏（高山一組 専念寺住職）
- 三島 見らん氏（吉城組 西念寺副住職）
- 帰雲 真智氏（高山二組 還來寺住職）
- 三島 清圓氏（吉城組 西念寺住職）

※印刷したものの郵送をご希望される方は、教務支所までご一報ください。

「高山市民時報」法話連載

『高山市民時報』に、教区内僧侶による法話が月4回掲載されています。頒布地域は限られますが、購読されている方はご覧いただきますようご案内いたします。

テレビ番組 ごほうチャンネル！ 第4弾

高山市ケーブルテレビ「Hit net TV！」

- 放送期日 6月1日～30日 毎日放送！
- 放送時間 午前11時15分～30分 午後5時30分～45分
- 放送内容 お坊さんのお話、クイズ・仏教讃歌
- 視聴方法 高山市ケーブルテレビ「Hit net TV！」への加入が必要です。（お問い合わせ先 0800-200-8688）



初まいり式(高山一組)

一家族そろって 仏さまへの初まいりー

5月9日、別院本堂にて、高山一組事業の「初まいり式」が勤まりました。この世にいのちを授かったお子さま（生後～3歳が対象）と一緒に、家族そろってお参りしていただく儀式です。



当日は、17家族、21人の子どもたちと、その親、祖父母あわせて80人ほどが集い、誕生仏に甘茶をかけ合掌して、仏さまの願いと重ねながら、いのちの誕生を喜びました。

飛騨御坊真宗教化センター・高山別院 2021年6月行事予定

日	曜	時間	ご坊センター・高山別院	会場
1	火	13:30	☑ 企画会議 (web)	研修室
2	水			
3	木	13:00	別 三日のご坊 法話:輪番	本堂
4	金			
5	土	7:00	組 高山一組親鸞教室⑤ 別 半日華	研修室
6	日			
7	月	14:00	教 慶讃推進委員会 (web)	高山教務支所
8	火			
9	水	14:00	教 解放推進協議会常任委員会	研修室
10	木	13:30	教 教化研究所課題別講義	御坊会館
11	金	13:00	別 大谷婦人会定例 法話:輪番 (中止)	御坊会館
12	土			
13	日	7:00	別 前住上人ご命日	本堂
14	月			
15	火	7:00	別 半日華	
16	水			
17	木	19:00	☑ 真宗公開講座 (講師:和田 英昭氏)	本堂
18	金	13:30	教 総合企画室	岐阜高山教務所
19	土			
20	日	11:00	別 納骨経	本堂・御坊会館
21	月			
22	火			
23	水	13:30	☑ センター総会	研修室
24	木	19:00	教 教化研究所	研修室
25	金	7:00 14:00	別 半日華 教 財務小委員会	研修室
26	土	13:30	別 佐奈姫忌	松本公民館・墓所
27	日	13:00	別 親鸞聖人お逮夜	本堂
28	月	13:00	別 親鸞聖人御命日 法話:前田 法俊氏 (法蓮寺住職)	本堂
29	火			
30	水			

7月 ※15日ごろまでの掲載とし、定例行事は省きます。

日	曜	時間	ご坊センター・高山別院	日	曜	時間	ご坊センター・高山別院
5	月	13:30	教 教区教化委員会総会	12	月	13:30	組 二組組会
8	木	13:00	別 高山別院 院議会	14	水	14:00	教 教区財務委員会 15:00/参事会・常任委員